

経済広報センター講演会

経済広報センターは7月3日、ユニバーサルエネルギー研究所社長の金田武司氏を講師に迎え、「エネルギーの過去と未来のはなし」と題する講演会を東京・大手町の経団連会館で開催した。

まず金田氏は、2018年9月に北海道全域が停電した「ブラックアウト」や今年6月にホルムズ海峡で日本のタンカーが攻撃を受けた事例を取り上げて、現在の日本におけるエネルギー

供給体制が決して盤石ではないと強調した。

続いて、明治時代には北海道や九州の豊富な石炭資源が近代化を支え、大正時代には急峻な山や急流の川における水力発電所の開発が工業化を押し進めた一方、昭和時代には石油の争奪戦による戦争の勃発やオイルショックによる物価の高騰が生じたことにみられるように、エネルギーシフトと近代日本史は深く関連し、またリスクを受容して

「エネルギーの過去と未来のはなし」を開催



発展してきたことを紹介し、未来のエネルギーのあり方を考えるためのヒントは歴史にあると指摘した。

最後に、LNGや原子力、新エネルギーなどの各発電方法には安定供給や経済性、環境性など、それぞれメリットとデメリットがあり、他国とエネルギーインフラが一切つながっておらず、エネルギー自給率が著しく低い日

本は、戦後の日本経済を支え、培ってきた先進的な技術やノウハウを安易に捨てることなく有効に活用し、選択肢をできるだけ広く持ち続けることが望ましいとの考えを示した。